

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第4週)

(令和7年1月20日～令和7年1月26日)

令和7年1月30日

定点報告(上段:定点当り/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2025年					2024年 合計	2023年 合計
		1週	2週	3週	4週	合計		
定点報告	インフルエンザ	37.83 227	38.50 231	23.17 139	13.83 83	— 680	— 1,616	— 2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	17.83 107	15.17 91	14.83 89	11.67 70	— 357	— 3,622	— 2,663
	RSウイルス感染症	1.00 4	0.25 1	— 0	0.25 1	— 6	— 309	— 425
	咽頭結膜熱	2.00 8	1.25 5	0.50 2	1.00 4	— 19	— 337	— 129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.75 3	1.25 5	2.75 11	1.25 5	— 24	— 657	— 237
	感染性胃腸炎	0.50 2	4.25 17	4.50 18	3.25 13	— 50	— 610	— 988
	水痘	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 6	— 1
	手足口病	0.25 1	— 0	0.25 1	0.25 1	— 3	— 952	— 129
	伝染性紅斑	— 0	0.25 1	0.25 1	0.25 1	— 3	— 0	— 8
	突発性発しん	0.50 2	0.75 3	0.75 3	0.50 2	— 10	— 182	— 266
	ヘルパンギーナ	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 19	— 319
	流行性耳下腺炎	— 0	— 0	0.25 1	— 0	— 1	— 13	— 15
	急性出血性結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	流行性角結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 9	— 13
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 1	— 3
	クラミジア肺炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	細菌性髄膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	マイコプラズマ肺炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 16	— 1
	無菌性髄膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	インフルエンザ入院	3.00 3	3.00 3	1.00 1	2.00 2	— 9	— 19	— 10
新型コロナウイルス感染症(入院)	2.00 2	4.00 4	3.00 3	1.00 1	— 10	— 120	— 19	
全数報告	百日咳	—	—	—	1	1	—	—
	新型コロナウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	4,241

<相双地域感染症発生動向調査週報 令和7年第4週> カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

《定点把握疾患》

インフルエンザ と **咽頭結膜熱** の **流行** が見られます。

《全数把握疾患》

百日咳(1名:学童) の報告が管内の医療機関からありました。

【インフルエンザについて】

相双地域及び県(県内総数)ともに減少傾向が続いています。インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することで起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて喉の痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。

基本的な感染対策をお願いします。

【新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について】

相双地域では減少傾向、県(県内総数)では横ばいの状況です。引き続き体調管理に留意するとともに、定期的な換気や、インフルエンザと同様、基本的な感染対策をお願いします。

【伝染性紅斑について】

相双地域では横ばい、県(県内総数)では増加傾向が続いています。伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 による感染症です。感染経路は飛沫感染や接触感染で、約 10 日の潜伏期間の後、発しんが両頬から体・手・足に拡がります。通常、頬に発しんが出現する 7~10 日前に風邪様の症状がみられ、この時期にウイルスが最も多く排出されます。発しんの現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失した状態です。妊娠中に感染した場合、胎児水腫や流産を生じる場合があります。

予防には、手洗いや、マスク着用等の咳対策が有効です。